

# 10・3京都大集会へ!

2016年9月6日  
No.403

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 赤嶺知晃・沖縄大自治会委員長の 全学連大会でのアピール!

天皇制を据える現行憲法のあり方を問題にすることも含め、僕らが改憲攻撃に対して「ゼネストと革命」を訴えることが重要です。

沖大当局の僕への処分は、「京大と一体で反戦ストをやらせない」という攻撃だし、警視庁公安の大会参加者への暴力的襲撃は、韓国・民主労総委員長代行のチェジョンジンさんの日本入国拒否(8月24日)と同じだと思えます。

いま沖縄で起きている情勢は、ゼネストと国際連帯で労働者が革命をやり抜かないといけないところにきています。高江ヘリパッド建設は、米軍北部訓練場を返還して、より強固な基地をつくる、まさに朝鮮侵略戦争のための基地建設強化が狙いです。今、バラバラになっていた沖縄基地を全部返還し、嘉手納基地を増強していくというかたちで「基地の再編・強化」が起こっています。「オール沖縄」勢力は、「これは負担軽減だ」と米軍基地再編・強化を全部のんでいる。

「オール沖縄」の混迷の中でも、沖縄の労働者人民は侵略戦争反対で立ち上がっています。高江の現地では、ヘリパッド建設反対で土木労働者が立ち上がっています。「基地建設は許さないんだ」「人に喜ばれることこそ自分の仕事だし、名護で基地を作らされた人間として、こういうことを自分たちは望んでいない」と訴えています。ついに土木労働者が基地反対で立ち上がっていることの凄さです。

「オール沖縄」は、沖縄の闘いの歴史で「島ぐるみ闘争」を押し出しますが、そうではなく、戦後に基地労働者が朝鮮



戦争反対でストで闘っています。沖縄の労働者は一貫して「朝鮮戦争阻止—侵略戦争反対」であり、国際連帯とストライキで戦争を阻止したい思いがあります。「オール沖縄」はゼネストだけはやらせないという攻撃です。

9月19日に辺野古基地の裁判で判決が出ますが、翁長知事は「判決には従う」と言っています。高江の現場では労働者が座り込みで闘っている一方、機動隊や極右に暴力をふるわれながらも闘い抜いているその現場に、三宅洋平が安倍昭恵を連れてきている。「左派」

の顔をした連中が、絶対反対で闘う人々の前に登場して「階級融和」をやろうとしている。こうした連中をぶっ飛ばして、ゼネストに立ち上がることが重要です。

そういう意味で、京大ストの意義は大きいし、この情勢の中で「ストライキしよう!」と訴えて沖大自治会執行部選挙を闘ったことに対しての、僕への8月3日の「訓告処分」だと思えます。これへの反撃は、沖大ストしかありません。

沖大は9月26日に開講します。沖大の訓告処分と自治会執行部への弾圧は、全学連が全国に学生自治会をつくってストライキを訴えてきたこと、安倍を倒すゼネストを切り開こうと闘ってきたことへの弾圧です。僕は沖大開講日で、10・3京大集会に沖大生も全力で駆けつけよう、11月の労働者集会に立ち上がろうということ心から沖大生に訴えたい。

沖縄・名護市の失業率は16%でスペインと同じです。うるま市の失業率は18%で、ギリシャに追いつく状況です。地

### 4学生への無期停学処分撤回!

## 10・3京都大集会

10月3日(月)11時50分 京大本部クスノキ前集合  
12時 集会開始  
12時45分 第2回署名提出行動  
【主催】京都大学全学自治会同学会中央執行委員会



元の名護の青年が反基地行動に立ち上がったら、職場内で排除されたり解雇される例が実際にあります。そして大学では、経済的徴兵制で「学費が払えない学生は戦争に行け」と言われている。こういう現実をいかに変えるかが闘いを決める重要なところ。「オール沖縄」との対決は、沖縄の全基地撤去の闘いだし、京大の処分撤回の闘いを通して全国大学で反戦ストライキを巻き起こすことです。

沖大自治会の仲間が沖縄県民大会に参加したことに対し、沖大当局・学生支援課が本人に直接電話して、「お前は県民大会に行ったのか」と問いつめている。もしくは、僕らと会話をした学生に「自治会やめろ」と当局が言い続けている。

これが「オール沖縄」の裏側でやられていることです。「オール沖縄」は、「闘えてない」とか「不十分」とかじゃなく、根本的に腐っているわけです。翁長知事なんて、那覇市長時代に最先頭で那覇市職労つぶしをやってきた人物です。

かつて名護市職労は、組合員を辺野古新基地建設反対の座り込み現場に派遣していました。しかし、名護市の窓口が「革新市政」の下で民営化され、組合は崩壊してしまいました。いま名護市職労は数百人から十数名に激減し、辺野古闘争に参加できない状況にあります。「オール沖縄」の中で、沖縄労働者民衆は困難をきわめている面があります。

まず京大から日本学生運動にストライキを甦らせる。京大からぶち抜いて、「僕ら学生や労働者が社会を回しているんだ」と宣言する。最初は少数でも、学生運動の復権だしストライキで闘えるんだと示すことが、どれだけ全国・全世界に波及力を持つか、ということです。沖大学生自治会として、自らへの処分撤回闘争をやり抜きながら10・3京大集会や11月労働者集会に向かっていきます。

大会初参加の学生がさっき言ってくれた、「仲間が公安警察に傷つけられているのを見て怒りが湧いた」という発言に目頭が熱くなったんですが、いま苦しんでいる学生とどう結びつくのが課題になっています。戦争と貧困は激しい。その中で、学生が立ち上がるリスクが大きくなっています。今年5月の沖縄闘争で、全学休講の中、自治会再建から3年目にしてついに沖大生の集会への決起をかちとりました。バイトで苦しんでいる学生が来てくれたことに、僕はものすごく自信を持っています。彼は僕らのビラをずっと読んで集めていました。昨年11月から、「京大に続いて沖大でストをやりたい」と討論してきました。

苦しんでいる人たちにこそ、「戦争か革命か」なんだ、労働者・学生は立ち上がるんだと訴えていきたい。あいまいなものは、苦しんでいる学生には通用しません。僕ら以外に「労働者が社会の主人公だ」と言っている勢力はいません。

いかなる苦しい現状でも、革命を訴えて労働者は立ち上がるんだということにかけたい。僕らの闘いに対して、沖大職員は「ルールを守れ」と言ってきます。第二次世界大戦の時、ガス室にユダヤ人を送ったドイツ軍兵士たちは、「自分たちはルールに従っているんだ」と言い聞かせて、自分の感性もなくしてやってきた。僕ら学生の要求と大学の叫ぶ「ルール」は相反するものです。人間的感性や思いを押しつぶす「ルール」なんてふざけているんだ、必要ないんだ、ということをも僕らの処分撤回攻防の中でハッキリさせたい。

マルクス主義でこそ労働者・学生は団結できる。ストの中でマルクス主義を復権させたい。指摘されたことに襟を正し、受け止め、同じ人間として親身になって仲間とのりこえます。みなさん、一生をともにして闘っていきましょう！

## 【当面する行動方針】

### ●9・16法政大開講日デモ～京大闘争連帯～

9月16日(金) 12時半 法大市ヶ谷キャンパス集合 13時 デモ出発(13時半終了予定)

### ●“市東さんの農地死守!” 10・9三里塚全国集会

10月9日(日) 正午～ 三里塚現地・反対同盟員所有地にて

【主催】三里塚芝山連合空港反対同盟



## 国境をこえた団結で朝鮮侵略戦争と労働法制改悪阻止へ!

### 11・6全国労働者総決起集会

11月6日(日) 正午 東京・日比谷野外音楽堂

### 民主労総11・12労働者大会

11月12日(土) ソウル



<呼びかけ> 全国民主労働組合総連盟ソウル地域本部(民主労総ソウル地本) / 国鉄千葉動力車労働組合(動労千葉) / 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部(関生支部) / 全国金属機械労働組合港合同(港合同)